

# レジリアンス・プロジェクト平成 21 年度研究計画 (Research Plan for FY2009)

1. 氏名/所属: 岡本雅博 (総合地球環境学研究所)

2. 具体的な研究課題 (今年度)

- 1) 家畜放牧地の実態調査 (ザンビア南部州)
- 2) 家畜飼養の実態および変遷にかかる調査 (ザンビア南部州)
- 3) ザンベジ川中流域カリバ湖畔における地域史的研究 (ザンビア南部州)

3. 具体的な研究内容 (今年度)

- 1) 家畜 (ウシ、ヤギ) にGPSを取り付け、その行動域・放牧域の実態把握を試みる。また植生調査もあわせておこなう。
- 2) 聞き取り調査を中心に、1950 年代以前 (カリバ建設前) から現在に至るまでの家畜飼養の変遷を探る。
- 3) 聞き取り調査および文献調査により、ザンベジ川中流域カリバ湖半を中心とした地域の社会的・生態的変遷を明らかにする (同じザンベジ水系のロジ社会との対比)。また、グエンベトンガの個人史に関する調査をおこなう。

4. 今年度末までの達成予定 (上記の課題毎に、何をどの程度明らかにできるか)

- 1) 放牧域の調査は、今年の 3 月に開始したが、今年度いっぱい継続することにより、家畜放牧の季節的変化を具体的に提示できる。また、乾季にはトウモロコシ耕地での刈り跡放牧がおこなわれるが、この調査を実施することによって、犁耕以外でも農牧が有機的に結びついていることを示すことができる。さらには放牧の調査をとおして、トンガ社会におけるコモンスのあり方を検討することが今後可能となる。
- 2) カリバダム建設にともなう強制移住以降におけるグエンベトンガのウシ飼養の受容の変遷を明らかにすることは、地域の生業史の復元のための重要な資料となる。今年度中は情報・資料の収集をし、具体的な成果がだせるのは来年度の予定。なお、これまでの現地調査で得ることができた婚資の変遷 (婚資の支払のヤギからウシへの変化) に関しては、今年度中に何らかの形でまとめたいと考えている。
- 3) ダム建設前と後の生活・生業の比較に関するインタビューをもとにした映像作品を、年度内に編集・制作する (現時点では3人のインタビューを収録済み)。

5. 今年度現地調査予定

- 1) 時期 ①8月、②12月、③2月~3月 (各1ヶ月の滞在。ただし③に関しては予算があれば実施する。)
- 2) 目的 ①②③ともに上述の研究課題1) 2) 3) を遂行するため。
- 3) 内容/準備状況 現在、研究課題の1) に関して、6世帯 (4集落) の農家にGPSを貸与し、私の不在期間における放牧に関するデータをとってもらっている。また同時に現地で調査助手を2名雇用し、定期的に農家を訪問し、GPSのチェックおよび家畜飼養に関する質問調査 (家畜の売買、交換、屠殺、婚資支払、出産など) も進行している。

6. 次年度以降の計画予定概要

(平成 22 年度)

家畜放牧・飼養、地域史に関する調査のため、3度程度の現地調査を計画している。

(平成 23 年度)

家畜放牧・飼養、地域史に関する調査のため、3度程度の現地調査を計画している。

7. 成果発表計画

発表予定学術誌 (学術誌名)

『地理月報』（「ザンベジ川上流域・バロツェ氾濫原における生業複合の脆弱性とレジリアンス」）、印刷中

『地域研究論集』特集「メディエーションとしての地域研究」（「アフリカ研究と実践活動（仮）」）、依頼投稿

『レジリアンスプロジェクト・ワーキングペーパー』（「西部ザンビア・ロジ社会における生業複合の可塑性（仮）」）

『レジリアンスプロジェクト報告書』（「ザンビア南部州グエンベトンガにおける家畜放牧の季節的変化（仮）」）

発表予定学会（学会名・時期）

IHDP アムステルダム会議（12月、「How the African Farmers Cope Effectively with Climate Variability?»（仮））

国内の学会（未定）

ワークショップ等

レジリアンスプロジェクト・ルサカWS（8月、題目未定）

猿田彦大神フォーラム「日本・アフリカ祖先崇拝比較研究（仮）」（9月頃）

京都精華大学公開講座・地球環境学講座（10月頃）

地球研談話会（10月）

8. その他（何かあれば）